

胃がんリスク検査 Q&A

Q ペプシノゲン検査で何がわかりますか？

A：胃の粘膜の萎縮度を確かめます。ペプシノゲンとは、胃の粘膜から分泌される酵素「ペプシン」の元になる物質で、胃の粘膜が萎縮するとその値も低下してしまいます。ペプシノゲンのほとんどは胃の中に分泌されますが、一部（約1%）が血液中にも入ることから、血液検査で確かめることができます。

Q 胃粘膜の「萎縮」とはどのような状態でしょうか？

A：正常な胃の粘膜は、きれいなピンク色で、ひだに覆われています。しかし、ピロリ菌の感染によって炎症を起こし、炎症が続くとひだがなくなり、血管が透けて見えるほど粘膜も薄くなります。このような状態になることを「萎縮」といいます。

萎縮性胃炎は「胃がんの温床」と言われていますし、胃がんだけでなく胃潰瘍や十二指腸潰瘍などのリスクが高くなります。

Q ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）にはどのように感染するのですか？

A：ピロリ菌とは、胃の中に生息している細菌です。どのように感染するのかはまだ充分わかっていませんが、口から感染すると考えられています。特に感染が起こりやすい時期が乳幼児期（5歳以下）です。慢性的に感染が続くことで、胃がんの発生との関わりの強い萎縮性胃炎、胃潰瘍や十二指腸潰瘍といった病気が起こりやすいとされています。成人してからのピロリ菌の慢性的な感染はほとんどありません。ピロリ菌は、抗生物質などの投与によって除菌治療を行うことも可能です。

Q 過去にピロリ菌を除菌したことがあります、リスク検査は受けられますか？

A：除菌された方は、リスク検査は受けられません。検査しても正しい判定結果が得られないからです。除菌することで胃がん発生リスクは低下しますが、ピロリ菌除菌後に胃がんが発見されることもありますので、定期的にバリウム検査や内視鏡検査を受診しましょう。

Q A群と判定されました。胃がんになることは絶対にありませんか？

A：将来胃がんになる可能性は極めて少ないですが、ゼロではありません。
自覚症状がある場合は、医療機関にかかりましょう。

Q A?群と判定されましたが、これはどういう意味ですか？

A：ペプシノゲン検査で陰性（-）、ヘリコバクター・ピロリ検査で陰性高値（±）の方の判定になります。かつてピロリ菌に感染し、抗生物質等の影響で菌が消失したと疑われるケースなどが考えられます。この場合は胃がんの発生するリスクがあるので、1度内視鏡検査を受けられることをお勧めします。内視鏡検査により、胃がんリスクの判定をより正確に判断することができます。

Q ピロリ菌が陽性と判定されましたが除菌には健康保険が適用されますか？

A：医療保険で、ピロリ菌の除菌が保険適用になるには条件があります。詳しくは医療機関にご相談ください。条件に該当しない場合の除菌費用は、全額自費となります。概ね2万円前後です。